

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4671000190
法人名	医療法人 全隆会
事業所名	医療法人 全隆会 指宿みどり館
訪問調査日	平成20年8月21日
評価確定日	平成20年10月22日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日平成20年9月16日

【評価実施概要】

事業所番号	4671000190		
法人名	医療法人 全隆会		
事業所名	医療法人 全隆会 指宿みどり館		
所在地	鹿児島県指宿市東方7521番地3号 (電話) 0993-24-5161		
評価機関名	特定非常利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年8月21日	評価確定日	平成20年10月22日

【情報提供票より】(20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成10年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1階建ての	1階	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日 840 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		830円	

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	指宿竹元病院 まつもと一広歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲は有名な温泉街や、大型スーパー・オートショップ・学校などがあり、利便性や自然に囲まれた地に開設されているホームである。敷地内に老健施設・やすらぎ園・病院が併設されており、常に利用者との関わりを持つ事のできる環境の中で穏やかに暮らしている。管理者・職員はホームが開設されて、10年を経たこの機会をひとつの区切りとして原点に戻り、身体面の重度化や認知症が進行していく利用者に対するケアのあり方を追及している。職員は明るく活発で個々にリーダーとして役割を果たしながら利用者に関わっている。運営者の管理者・職員に対する信頼度の厚さがうかがえる。家族にも安心感を与えている。また行政職員の協力もあり、地域との交流は進行している。地域行事に参加したり、体験実習など受け入れている。朝夕子ども達の声が聞こえる通学路に面しているため、子ども110番の家として、受託する事などを検討し地域に根ざしたホームを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域行事への参加や中学生の職場体験、災害訓練への協力関係など地域住民との関わりは深くできている。介護計画の定期的な(6ヶ月)見直しを3ヶ月の見直しに改善し、変化の兆しに予防的に対応するなど、改善課題に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組み「災害訓練の充実を図って行きたい。」などの意見が出されて、改善に取り組むサービスの質の向上に活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は定期的開催されている。ホーム運営に対して地域住民の理解が得られるように、行政職員が力添えをしてくれるなど、地域及びホームや行政との協力関係が深まっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	職員は家族などの来訪時や家族会などで意思の疎通を図り意見や要望を出しやすい雰囲気作り心がけている。また無記名方式の家族アンケートを取り、即対応できるように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域行事(敬老会の運動会・夏祭り)に参加している。中学生の職場体験の受入れや近隣の方から花や野菜を頂いたり、ホーム手作りの物をおすわけするなど、気軽な交流をしている。また資源回収への参加や子供110番の家を受託する検討をしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義と役割、慣れ親しんだ地域で暮らし続けるための理念と、職員の意見を集約してつくり上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目につく場所(玄関・ホール・トイレなど)に掲示し、認識できるようにしている。ケア会議や日々の支援の中で確認しあい共有に努め、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事(敬老会の運動会・夏祭り)に参加したり、中学生の職場体験の受入れや近隣の方から花や野菜を頂いたり、ホーム手作りの物をおすそ分けするなど、気軽な交流をしている。また資源回収への参加や子ども110番の家を受託する検討をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、全員で自己評価に組み込み災害訓練の充実(避難場所を認識する・さまざまな災害のシュミレーションをしていく)を図って行きたいなどの意見が出されている。サービスの質の向上に意欲的である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催されている。ホーム運営に対して地域住民の理解が得られるように、行政職員が力添えをしてくれるなど、地域及びホームや行政との協力関係が深まっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の連絡協議会が定期的開催されており、市の担当者を交えて情報交換を行っている。またホームの運営やサービスについて相談し協力関係はできている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に 配布しているホーム便りや月次報告・家族会(四季の行事参加参加の際)・来訪時に心身の状況や暮らしぶりを報告している。金銭管理は出納帳で管理し、定期的に報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族などの来訪時や家族会などで意思の疎通を図り、意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。また無記名式の家族アンケートをとり即対応できるように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者、家族とのなじみの関係を重要視したケアを心がけており、法人内異動は行わない話し合いができています。やむをえない異動の場合には、職員にホームの理念やケアの考え方をしっかり指導し、利用者に不安を与えないように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は段階に応じた研修に参加して復命研修報告をしている。また、法人内勉強会やホーム独自の勉強会に参加し、職員の技術や知識の向上に努めている。資格取得者数も多数おり、意欲的な職員を支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム協議会の役員として活動しており、地域にある他事業所と見学交流や情報交換など、積極的に行っている。また利用者と一緒に他ホームを訪問し、茶話会をするなど相互訪問を行い交流に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望(老健・病院・家族・他ケアマネ)の際には本人と面談したり家族や主治医より生活状態、思いや不安を十分に聞いている。なじめるように見学や説明をし、信頼関係を築き不安なく入居できる様に取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中でその人の特技(庭木の手入れ、調理、戦争体験談、昔話)など発見したり、教わったりしている。また利用者の感謝の言葉や笑顔に職員は元気をもらいながら日々を共にしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別記録に本人の言動・表情・行動を記している。問いかけたり、職員間との情報交換や記録の中から思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状態や生活歴・希望を把握し、家族などの思いを聞きカンファレンスで職員の気づきや意見を出してもらい、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な(3ヶ月)見直しをしている。利用者の状態変化や入退院の際は都度モニタリングを行い、評価結果を見直しに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族などの状況や要望に応じて病院受診や墓参り、自宅訪問など必要な支援を柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などが希望しているかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して家族・医師・看護師を交えて話し合い職員も共有している。ホームが支援できる方向性を統一した指針が定められて家族などの同意書も作成されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため尊厳への関わり方について勉強会をしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員採用時の個人情報保護の誓約書も取っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決められているが「食事・起床・就寝・入浴」などその人の生活リズムと身体状況を大切にしながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや盛り付け、配膳、下膳など出来る事を一緒にしながら職員も同席して食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められていない。一人ひとりの希望や体調に合わせて、対応している。またパッド使用の方に対しては毎朝、清拭を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植木の手入れ・農園の植え付けから収穫までの管理・洗濯物干し・たたみ・調理など利用者の趣味や特技を發揮できるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や買い物、ホーム便りを本人の自宅のポストに配達したり、車椅子利用の方のためにローテーションを組み換えて、外出の機会づくりを工夫しなるべく出かけて閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害を理解しており、プライバシーに配慮しながら、センサーを利用し見守りに努めている。利用者は開放的で自由な生活をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練(昼間・夜間想定)をしている。隣接病院・事業所と共に地域住民の協力のもと訓練をしている。また災害時の備蓄もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックして一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができるように支援している。身体状況に合わせてミキサー食やキザミ食を取り入れている。また栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は清潔で換気がよく、季節の花々が飾られて落ち着いた雰囲気のある居住空間である。随所にソファやタタミ部屋などくつろげるスペースの確保がされており、利用者はゆったりと過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お守り、神札、座椅子、時計、毛布や枕カバー、写真など使い慣れた物品が持ち込まれている。また趣味の写真や道具などあり、それぞれ個性のある居室づくりになっている。		